

NPO の実践

都市と農山村とのネットワークづくり

日時：平成24年9月22日（土） 10:00～12:00

講師：鹿住 貴之（JUON（樹恩）NETWORK 事務局長）

概況



○JUON NETWORK とは

- ・1998年に大学生協の支援を受けて誕生した特定非営利活動法人(NPO 法人)。2011年6月に認定NPO法人(国税庁長官に認定されたNPO 法人。現在は都道府県が認定)に。
- ・主な活動は都市と農山漁村を結ぶ「自然と文化のネットワーク」づくり、森林の保全・育成・ボランティア活動、過疎地の廃校を活用したセミナーハウスの運営・支援、地方文化の発掘と普及など。
- ・大学生協が廃校となった校舎を再利用していたことや、1995年の阪神大震災の際、学生の寮として徳島の森林組合に間伐材を利用した仮設のミニハウスを提供された縁で、都市と農山漁村を結ぶ活動を始めた。
- ・現代日本は、都市に人口が集中し、農村部の過疎化が進んでいる。都市と農村部の交流を深め、雇用の回復、地域文化の振興、食料自給率の向上を行い、持続可能な社会づくりを進めていきたいと考えている。

○ 国産間伐材製「樹恩割り箸」

- ・日本の森林保全、障害者の仕事作り、食堂の排水を減らすことを目的として、国産間伐材製の「樹恩割り箸」の普及推進を行っている。間伐材を学生に利用してもらうことで、都市と山村を結ぶ「架け橋」としたいと考えている。また、使用済み箸のリサイクルも行っている。
- ・丸太を製材した際に出る端材から割り箸を作ることで、国産木材の有効活用につな

げている。現在は、森林組合から資材の提供を受け、社会福祉法人が製造・販売を行っている。今後は地域ごとに製造からリサイクルまでの工程を行い、木材の地産地消が行えるようにしたいと考えている。

・現在、主に全国の大学生協で 1000 万膳の樹恩割り箸が利用されているが、日本で利用されている割り箸の約 97%が中国産であり、国産の割り箸の利用は少ない。価格が高い、割り箸自体の需要が減っている、などの課題がある。

○森づくり体験プログラム「森林(もり)の楽校」

・「学習」「体験」「交流」を柱として、森と人とのつながりを取り戻すために、森づくり体験、自然散策等を地域の活動団体と協力して開催している。

・森林ボランティア青年リーダー養成講座を開催し、若い世代に継続的に森林ボランティア活動を行ってもらうための活動の場を提供している。